

## 大山火山の完新世噴火 Holocene Eruptions in Daisen Volcano, Western Japan

奥野 充<sup>1\*</sup>, 井上 剛<sup>1</sup>

OKUNO, Mitsuru<sup>1\*</sup>, Takeshi Inoue<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 福岡大学理学部

<sup>1</sup>Fac. Sci. Fukuoka Univ.

大山火山は約 100 万年前に開始した第四紀の複成火山であり(津久井, 1984), 最新のマグマ噴火では, 山頂部の溶岩ドーム(烏ヶ山・弥山・三鈷峰)と山麓の火砕流が形成されている(三宅ほか, 2001)。これらの火砕物は, 約 30 cal kBP の始良 Tn 火山灰(AT: 町田・新井, 1976)を覆っており, 約 21 cal kBP の草谷原テフラ(D-KsP)は日本海にも分布しており(堂満ほか, 2002), 秋田県の一ノ目瀉からも見出される(Okuno et al., 2011)。しかし, 大山火山では, これまで完新世の噴火活動は知られていなかった。今回, 演者らは, 南麓の御机付近(地点 1)で厚さ 1 m 以上のシルト質・砂質火山灰層を発見した。この火山灰層には炭化木片が含まれており, 火砕流ないし火砕サージである可能性が高い。また, 東方の鏡ヶ成付近(地点 2)でも, 表層のクロボク土中に厚さ 5cm の火山灰層が認められる。地点 1 の炭化木片から  $3110 \pm 60$  BP が, 地点 2 の火山灰層直下の土壌からは  $3290 \pm 40$  BP の 14C 年代が得られた。両者の年代値はほぼ一致しており, 火砕流とその降下テフラであると考えられる。この火砕物の給源は, 火砕流地形の分布から烏ヶ山と弥山の間付近である可能性が高い。なお, 本研究の AMS<sup>14</sup>C 年代の測定は(独)日本原子力研究開発機構の施設供用制度を利用したものである。

キーワード: 大山火山, 完新世, 溶岩ドーム, 火砕流

Keywords: Daisen Volcano, Holocene, Lava dome, pyroclastic flow